

さらに、そのことが活動や行動を制約していることにも気持ちを向けたい。

障がいがある子どもの理解をめぐる

○授業を通して考える。

「授業の通してAさんの心を和らげたい」

1 「子ども理解」を子どもと教師の関係性から考える

①Sちゃんのこと(小2)から考える

：障害名 インフルエンザ脳症(2歳3ヶ月)の後遺症による体幹機能障害、知的障害

Aさんに「自分の周りの人にもう少し安心してゆったりと気持ちを向けられるようになってほしい」と思いました。・・・
・・・授業を通してお互いの気持ちを伝え合う時間を作り、そのなかでAさんに人の素晴らしさを伝えたい。(記録から)

○障害の重いSちゃんの実態をどうとらえたか

Sちゃんの気持ちはSちゃん自身がはっきりと表現していることは少ないので、いつも「・・・かな」という推察になっている。「自分の思いだけでSちゃんにかかわっているのでは?」「ほんとうのSちゃんの実態はなんだろう?」そんな思いになることもしばしば・・・。(記録から)

◎子どもの気持ちに寄り添うということ・・・
子どもと教師の関係性について

*一面的に子どもを理解することでなく、子どもの願いに寄り添った実践(授業・かわり)をとおした、豊かな関係性の下で理解する。

*マニュアル化できるものではなく、子どもを発達的に理解したいという教師の願いとともに築かれていくもの。

◇絵本を読んだ時のこと

◇お友達との遊びでのSちゃん

◎子どもに働きかけ、かかわるなかでとらえることの大切さ・・・子どもの事実からとらえていく。

*教師の働きかけ方は、見方によって変わってしまうものであり、どんな働きかけをするのか、どんな場面を作るのかも問われる。

*発達検査などでは出てこない子どもの姿を大切にしたい。

*担任集団として、子どもの実際の姿を共有することから実践を始めたい。

2 子どもの願いについて考える

*子ども自身が意識していない「願い(要求)」もとらえる。

⇒教師の意図性を持った指導

◎見えにくいものであるからこそ、丁寧なかわりの中で発達的に子どもをとらえ、見通しをもって実践(授業づくり)をすすめていくことが大切。

②Aさんのこと(中1)から考える

：障害名 自閉症・知的障害

○「気になる行動」を考える

誰にとって気になる行動なのか?

子どもの側にたって考えたい。(行動の意味、行動の裏にある子どもの気持ちを知りたい。

3 さいごに

◎子どもの学校生活が豊かであるということは、実践が豊かであること。その意味でも「子ども理解」を基盤においた実践を大切にしたい。